

平成27年度第1回千葉県社会福祉審議会低所得階層福祉専門分科会
開催結果概要

- 1 日 時 平27年 9月14日(月)
午後1時30分から同2時30分まで
- 2 場 所 県庁南庁舎9階 第5会議室
- 3 出席委員 大野トシ子分科会長、岩田利雄委員、大坪紘子委員、
小島信夫委員、白戸章雄委員、松下浩明委員
(委員：総数7名中6名出席)

○事務局 中岡健康福祉部長、神部健康福祉指導課長、岩谷副課長、
下村班長、小泉主査

4 会議次第

- (1) 開 会
- (2) あいさつ
- (3) 議 題
ア 千葉県子どもの貧困対策推進計画案について
イ その他
- (4) 閉 会

5 議 事

ア 千葉県子どもの貧困対策推進計画案について

- ① 事務局説明
別添「資料」により説明
- ② 主な意見及び質疑応答

(質疑)

子どもの貧困というのは、子どもにその責任があるのではないわけですから、一番重要なのは、貧困の連鎖を断ち切るということが大事だと思う。

そのためには、教育が一番であり、教育的な支援に相当の力をいれることが大事だと思う。

法律で求められているので、他県も計画を作ると思うが、「これが千葉県の計画だ」という、千葉県独自のものを、どこかに散りばめていく必要があると思う。

千葉県の独自性というのは、どのようにして出していくのか。

(回答)

独自性というものを出すべきということがあり、千葉県では、実態調査を行い、その結果を計画に反映させている。

また、県の独自指標として、国の指標では無いものを入れているが、なかなか、独自色を出すのが難しい。

法律において、国の大綱を勘案して作りなさいということが前提としてあり、例えば、国の大綱も、4つの柱というのを示しており、作るにあたっては、他県の策定状況も調べたのですが、やはり指標というのを設け、4つの支援というものに施策を落とし込んでやっていくというのが標準的な形になってしまう。

なかなか「これが独自だ」というのが、なかなか他県も出しづらいということもあるのですが、その中でも、実態調査と独自の指標というのを作ったということです。

(意見)

独自色を出すのは難しいかなという風には思っている。

(意見)

これは厚生労働省の関連で話をしますが、学業に関しては、文部科学省が管轄ですから、いろいろとありますけども、各地域とか町によっては、遙かにこれよりも進んだものを行っているところも多い。

裕福とか貧しいとか関係無しに、一生懸命やるという子ども達には、役所が責任を果たす。奨学金で返してくれというのは、町は、そういう子どもを育てようということであれば、お金の返済はいらない。その代わりに、その分を社会に役立てて、返すつもりでがんばれというような形で融資する。

私は、生きる力をどうするかということが根本だと思う。そういう環境に育っても、自分のがんばってやるということです。これは、生きるということでも命を大事にしながら、がんばる力をどう植え付けるかということも、もちろん大事なことです。

子ども達をどうにか伸ばしてあげたら、もっとよくなるのではないかという思いもします。

ですから、県は、国が決められたことを、千葉県なりにまとめなさいということであるが、国で決まったことを、もう一回違う形で、千葉県で変えていくというのは、すごく大変なことだと思う。

これをやるのには、調査をしていくことで分かるんですが、こういう良い部分もあって、こういうことをやっている所もあって、これがとても成功しているところもあってというものは、必ずどこかにある。全部

否定することではないし、全部やってあげなければならないことでもないと思う。この部分は力を入れてやってあげよう。それは国の決まりであっても、力を入れるか入れないかのことです。まったく斬新な考えでなくても、千葉県は、この部分は、非常に力を入れたということは、やっただけの成果がかなり出てくると思う。

ですから、全国一律に近いものを流すとし、千葉県は独自性をとると言うことなら、まったく新規のものでなくても、この部分に力を入れたら、こういう成果を上げることができたと、そういうものをひとつ目指したらどうか。

千葉県としては、是非とも、千葉県なりのものを考えていきたい。ということのほうがいいと思う。

町村に行くと、貧困だと言われるようなことが見えない。それは、小さな町になればなるほど、全部でカバーしていく。隅々まで、細かいところまでちゃんと見てくれるということで、育つ子ども達も、家庭的なものも、仕事をどっかで探してあげようじゃないかという民生委員さんもいる。

アパート経営をやっている人達は、安い部屋を提供してくれたりして、みんな助け合っていていたりしている。そういう力が、千葉県らしいなと思える。

周りの人達に感心をもってもらうことと、社会の子どもとして育て上げること。貧しくっても、社会の子として育て上げられれば、周りの人達にいろいろお世話になって、それで今があるとの自覚が大人になって出てくれば、そういう意味では、社会貢献が出来るという風に思う。

特別なことをしようということではなくて、一人前の社会人に、みんな、地域が応援してあげるということではないかと思う。

そういうことが、千葉県というのは、飛び抜けたことをしないけれども、非常にそういう面では、みなさんが暖かいなとか、みんなでなんかをしていこうという意識が強い県なのだと思う。

(回答)

即答するのが難しいため、考えさせていただきたい。

(意見)

日本全体が、少子高齢化で、だんだん人が少なくなっている。それで、規律とかやる気とか、これから競争していくと考えると、やっぱり教育が一番大事。

教育は、全員が平等で受けられるようにしてあげるのが、国とか県の仕事だと思う。

やる気がある人に対しては、公平に教育の機会が与えられるようにして、教養をつけて、それで社会人になって、海外と競争して、日本も裕福だと思いますので、そのためには、こういう制度が必要である。

計画は作るのが目的ではなくて、実践するのが、いかに実効性をあげられるかが、一番重要だと思う。

計画はいくらでもあるが、それをいかに実行して効果をあげるかが大事であって、それを考えてほしい。

また、窓口がわかりづらいということがあったが、窓口に行くと、生活保護はこの窓口、教育はこっち、あっちとたくさんある。それはトータルで、一回受けて、それから振り分けられるようにした方が、見つけやすいのかなと思う。そういうことを考えてほしい。

(意見)

計画はこれでいいのですが、実施に当たっては、是非強弱をつけてもらう必要があると思う。

全部を揃えて、進めて行くと言うことは、なかなか難しいと思う。お金もかかるし、今の財政状況でそれが許されるのかということもある。

どこに重点をおいて進めて行くかということ、是非やってもらいたいと思う。

(回答)

委員より、千葉県らしさや、千葉県の独自性などの話もいただきました。また、先ほど触れませんでした、アンケートの結果から、ひとつの窓口で、ワンストップで、きちんと繋いでほしいとか、いろいろな支援について情報提供して欲しいということがありましたので、計画の周知啓発のところでは、これを絵に描いた餅にしないために、ここにうたっている様々な支援制度とか窓口を、ガイドブックのようなものにして、いろいろな部署に配付して、実効性を高めるというのも、ひとつの工夫ではあります。

先ほど、千葉県らしさと言うことで、地域であたたく見守っていくというように、この計画を作る一つの目標として、こんなに貧困率が高いということ、県民や我々知らなかったよね、そういうことを知って、そういう子ども達を地域で育てていくという意味で、周知啓発が必要じゃないかと意見も頂いているので、その辺をひとつの切り口で、なにか、千葉県らしさというものが、なにか盛り込めないかということは、検討していきたいと思います。

(意見)

是非、皆さんの意見が反映されるように、よろしく願いたします。

今後、パブリックコメントや市町村への意見照会を行う予定ということですので、それらの結果も踏まえて、次回、開催予定の専門分科会で、再度審議することとしてよろしいか。

異議無し

(意見)

それでは、事務局においては、委員の皆様からいただいたご意見及び、今後、実施予定のパブリックコメント等を踏まえ、検討いただき、千葉県子どもの貧困対策推進計画の策定に向けて、作業を進めてください。

イ その他

特になし

以上